品質保証及び自転車受領確認書は36ページに添付されております。

オージーケー技研株式会社　577-0066 東大阪市高井田本通6丁目2-32 電話：06-6782-4353（代）

ふたごじてんしゃ® × OGK Giken

幼児2人同乗用三輪自転車 TWB-001

取扱説明書（お客様用）

⚠ 取扱い注意事項　この説明書は、ご使用の前に必ずお読みください。読んだ後は必ず保管してください。
（自転車販売店の方はお客様に取扱いについて必ずご説明の上、お客様にお渡しください。）

この度は当社の製品をお買い求めいただきまして、ありがとうございます。

取扱説明書をよくお読みの上、正しく安全にお使いください。

- ご使用まえに「安全上のご注意」（1ページ）を必ずお読みください。
- 製品保証は1年です「お買い上げ日・販売店名」などの記入をよく確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。
  また、わからないことがあった時は直ぐに確認できるようにしてください。
- 製品をほかの人に譲渡される場合は、この取扱説明書を一緒にお渡しください。
- 販売店での説明を必ず受けていただき、乗りかたがわからないときは、販売店にご相談ください。

はじめに

●この三輪自転車は、自転車散歩、買い物などの日常生活用として設計されています。新聞配達など、業務用としてご使用にならないでください。また、日本国内以外の交通法規には適合していませんので、日本国内以外でご使用にならないでください。

●お子様を事故から守る為にヘルメットを必ず着用させてください。ヘルメットを着用させない場合の事故は重傷になりますが、着用させた場合は軽傷で済む事が報告されています。又、運転なさる方も出来るだけヘルメットを着用してください。

●万一の事故に備え、対人・対物賠償保険に加入されることをお薦めします。

●必ず、販売店で防犯登録の申請手続きを行ってください。（法令で義務付けられています。）
防犯登録制度は、駅前等の放置自転車問題の改善や自転車の盗難を予防することを目的としており、万が一、盗難被害にあったり、遺失した場合に自転車が早期に発見され、戻ってきやすくなります。防犯登録は、自転車販売業者が当該自転車の所有者を明らかにするために必要な事項を記載した登録カードを作成するとともに登録証（シール）を当該自転車に貼付するシステムです。

●本書に使用しているイラストは操作方法や構造、仕組みなどを分かりしやすくするため、現物とは多少異なる場合があります 。

●品質向上・改良の為予告無く仕様・デザインを変更する場合がありますので予めご了承ください。

もくじ

はじめに …… 1
使用上のご注意 …… 1
使用条件 …… 2
幼児2人同乗が可能です …… 3
自転車が盗難にあった場合 …… 3
各部のなまえ …… 4
安全上のご注意 …… 5 ~ 13
リヤキッズシートについて …… 14
交通ルールとマナー …… 15 ~ 16
ふたごじてんしゃの構造と特徴 …… 17 ~ 22
安全のための点検と整備 …… 23 ~ 32
点検整備チェックリスト …… 33 ~ 34

使用上のご注意

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■警告表示

警告表示は危険度・重要度の程度に応じて次の区分で表示しています。これらを守らないと事故につながったり、ケガをしたり、自転車がこわれるなどのおそれがあります。

⚠ 警告	取扱いを誤った時に使用者が、死亡もしくは骨折などの重症を負う可能性が想定される内容です。
⚠ 注意	取扱いを誤った時に使用者が、傷害を負う危険が想定されるとき及び、物的損害のみ発生が想定される内容です。
禁止	安全上、してはいけない内容及び行為を表す内容です。
強制	使用者に必ず実行していただく内容です。

使用条件

⚠ 警告　高速での事故・転倒は大ケガのおそれがあります。スピードはいつもひかえめにしてください。
また、天候や使用環境によってもスピードをひかえたり、乗車をしないようにしてください。

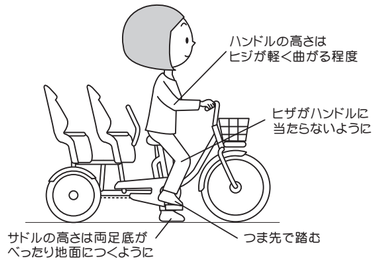
[標準常用速度] ※この標準常用速度は、この自転車を設計するうえで想定した標準的な速度です。
8～12km/h
但し、スイングストッパー使用時は5km/h（人が歩く程度の速さ）まで　→ 17ページ参照

[乗員体重（運転者）] 65kg

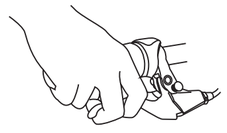
※ この自転車は乗員体重（運転者）を65kgまでに想定して基本設計いたしております。
従って、著しくオーバーした体重の方が常用された場合は、消耗度合、劣化度合が大きくなりますので、予めご了承のうえ、ご使用願います。

[標準適用体格]

●サドルに腰をおろしペダルを下にさげて足を乗せたとき、ひざに余裕があり、両足底がべったり地面につくように調整できること。

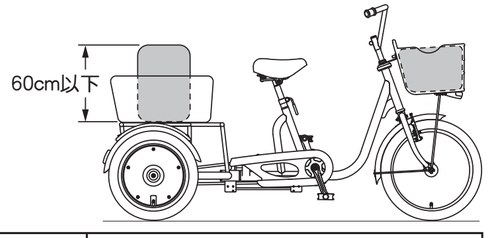


●ブレーキレバーは余裕をもってにぎることができること。



[乗せられる荷物の大きさと重さ]

●リヤキッズシート、リヤキャリヤを外して、うしろ用バスケットを取付けることが可能です。



	うしろ用バスケット	まえ用バスケット
最大積載量	取付けるバスケットの積載重量限度にしたがう	3kg まで
積載物の大きさの限度	高さ（60cm以下）・前後・左右共バスケットからはみ出さないこと	高さ・前後・左右共、バスケットからはみ出さないこと

⚠ 警告
●荷物の積み過ぎは走行安定性を著しく低下させ危険です。また、はみ出した荷物は歩行者や自動車などに接触するおそれがあり、危険です。最大積載重量及び積載物の大きさ限度を超えないようにしてください。
●バスケットに荷物以外（生き物など）は乗せないでください。

幼児2人同乗が可能です。

指定のリヤキッズシート(RBC-011DX-TW)を2台取付けることで、一度に2人まで幼児を乗せることができます。
ご使用になられるお子様の年齢及び体格を確認し、指定範囲以外のご使用はしないでください。

●適用体重(お子様1人あたり):体重22kg以下(クラスS52専用後ろキャリヤ使用時)
●適用年齢と身長:1歳(12ヶ月)以上6歳(72ヶ月)未満のお子様で身長115cm以下。(※乗車は2歳以上を推奨とします。)

⚠ 警告　1台のリヤキッズシートにはお子様を1人だけです。2人以上乗せないでください。

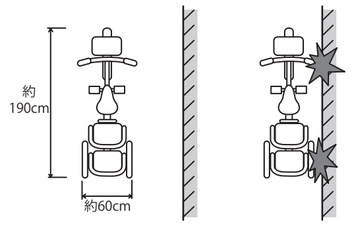
■幼児2人を同乗させる場合

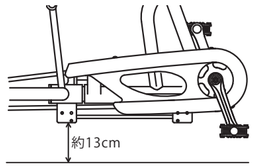
(リヤキッズシートのご使用について)
当社指定のリヤキッズシートを装着する場合、リヤキッズシートの取扱説明書の指示に従ってください。

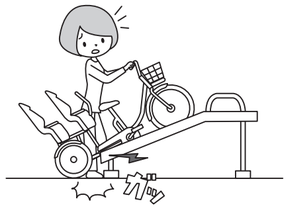
●リヤキッズシートの組み付けは販売店にご相談ください。
●当社指定のリヤキッズシートを取り付けて、幼児を乗せることができます。
●この自転車は幼児2人同乗用自転車安全基準(BAA)の適合車です。幼児2人を乗せる場合は、当社指定のリヤキッズシートを装着してください。
●当社指定以外のリヤキッズシートを装着すると、幼児2人同乗基準に適合しなくなります。
●フロントベビーシートの使用はできません。

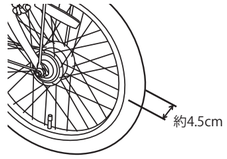
駐輪場について

●車体が入るスペースが必要です。
●2段式の駐輪レールには、上下とも駐輪できません。
●最低地上高は約13cmです。使用できない駐輪レールもあります。
●タイヤ幅は4.5cmです。駐輪レールの溝幅はそれ以上が必要です。





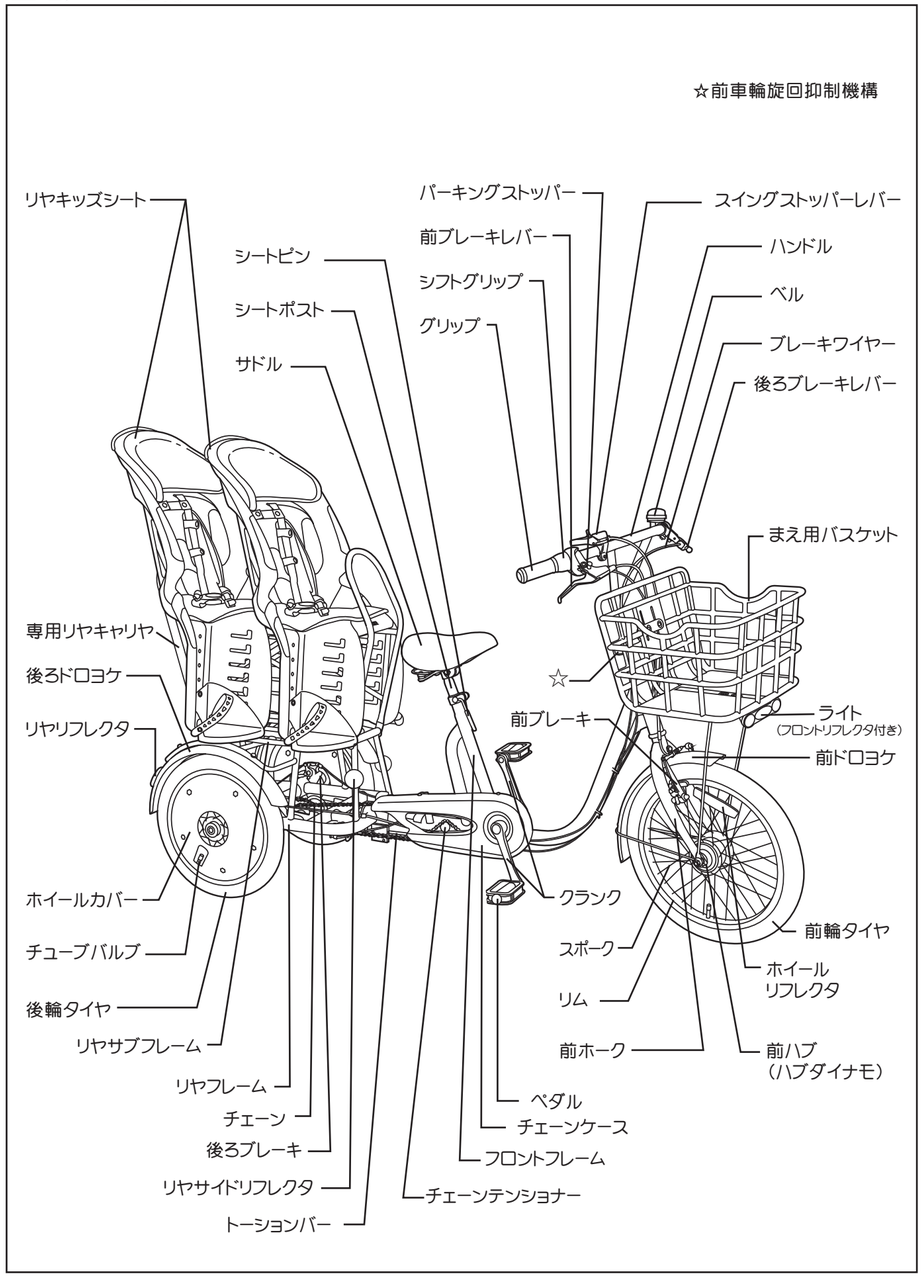




自転車が盗難にあった場合

地元の警察署に盗難届けを出してください。この時防犯登録ナンバーが必要になります。防犯登録ナンバーが不明だと自転車が見つかりにくくなります。防犯登録カードは保管しておいてください。防犯登録は、「自転車防犯登録所」の看板を掲げている自転車販売店で行うことができます。登録には自転車本体、公的身分証明書(運転免許証・健康保険証など)、購入したことがわかるもの(保証書・販売証明書など)と登録料が必要です。詳しくはお近くの「自転車防犯登録所」(販売店)でご確認ください。

各部の名称



安全上のご注意

⚠警告（三輪自転車の使用上の注意）

三輪自転車は普通自転車と構造、機能が異なっています。このため自転車に乗れる方でも普通自転車と違い運転しづらく感じ、乗り方によっては転倒するおそれもあるので次の点に特に注意してください。

禁止 乗り方を充分習得するまでは公道では乗らない

練習は空き地などの安全な場所で周囲の安全を確認してから行ってください。
後の車輪が2輪のため、一般の自転車と車幅の間隔が異なります。ポールや狭い道では十分に注意してください。

禁止 坂道・斜面・凸凹面では練習しない

慣れるまでは平坦路で練習してください。転倒し、ケガをするおそれがあります。

禁止 歩道の段差や溝・凸凹の激しい路面では走らない

車体が傾き、ハンドルをとられて転倒し、事故のおそれがあります。
三輪自転車から降りて、後輪に足をひかれないように注意しながら押してください。

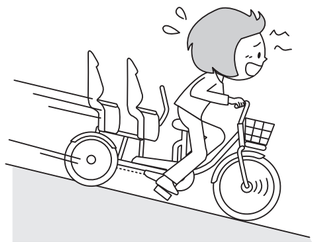
禁止 ジグザグ走行、急旋回はしない

左右車輪の片側が浮き上がって転倒したり、ブレーキの効きが弱くなり、事故のおそれがあります。

禁止 次のようなときは特にスピードを抑える

- 片側に傾いている道ではハンドルをとられやすい。
- 走行中に急旋回（小回り）すると、左右車輪が浮き上がり転倒する危険があります。
- 下り坂およびカーブ。
- 凸凹のある路面。

5km/h以下（歩く程度）の速さで走るか、降りて押す。



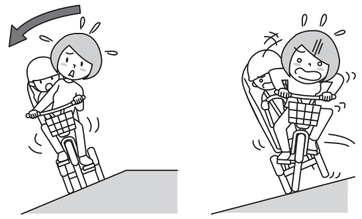
⚠警告（三輪自転車の使用上の注意）

禁止 けんけん乗り禁止

けんけん乗り（片足をペダルにのせながら助走し、反動をつけて乗車すること）は、後車輪が運転者とぶつかり転倒や事故のおそれがあります。必ずサドルにまたがって発進してください。

禁止 片側に傾斜している道路での走行には充分注意する

安定が悪くハンドルをとられたり、片輪が浮いて転倒によるケガのおそれがあります。



禁止 片側に傾斜している道路では乗りはじめない

安定が悪くハンドルをとられたり、転倒によるケガのおそれがあります。

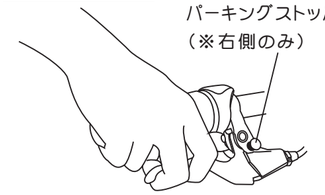
強制 三輪自転車は後の車体幅が広いので充分注意して使用する。

押して歩くとき、またはペダルに片足を乗せてけり乗りすると、後ドロヨケが足のかかとに当たってケガのおそれがあります。

強制 駐輪時はパーキングストッパーを必ずかける

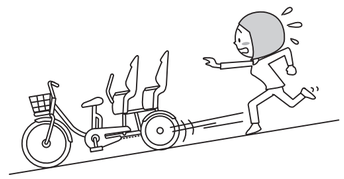
スタンドがないので、ひとりでに動き出して事故のおそれがあります。

→ 20ページ参照



強制 坂道には駐輪しない

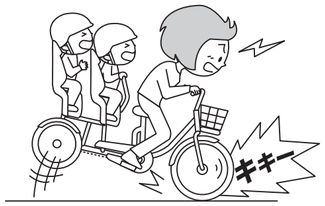
ひとりでに動き出したり、思わぬ事故に繋がることがあります。



⚠ 警告（三輪自転車の使用上の注意）

禁止 走行中にパーキングストッパーをかけない

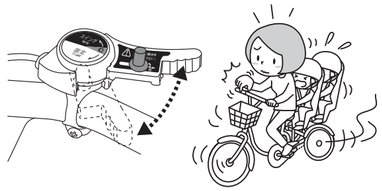
前輪がロックし転倒によるケガや破損のおそれがあります。



禁止 走行中にスイングストッパーレバーを操作しない

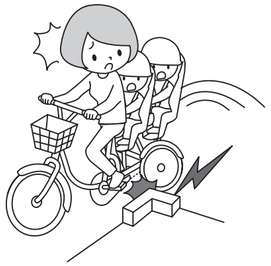
破損のおそれがあります。

→ 19ページ参照



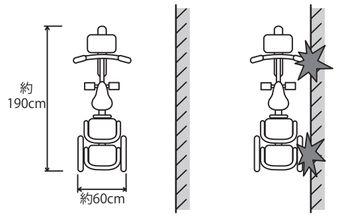
禁止 内輪差に注意して曲がる

脱輪や後輪をぶつけて、転倒によるケガや破損のおそれがあります。



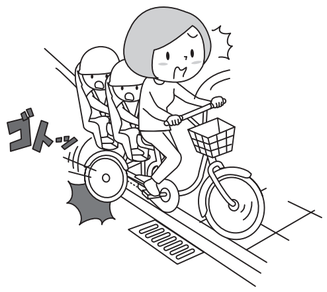
強制 駐輪場では車体の大きさに注意すること

隣の自転車や壁に干渉するおそれがあります。



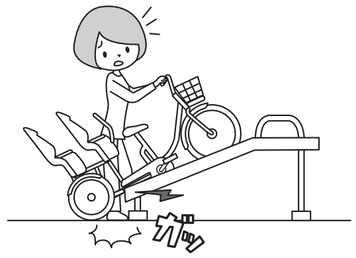
禁止 狭い場所や歩道への乗り入れに注意する

脱輪や後輪をぶつけて、転倒によるケガや破損のおそれがあります。



強制 駐輪レール使用時は高さに注意すること

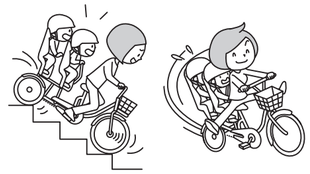
車体が干渉し破損するおそれがあります。



⚠ 警告（危険です!危ない乗り方をしないでください。）

禁止 乱暴な乗り方はしない

階段や縁石の乗り降り、アクロバット的な乗り方など自転車がこわれて事故・ケガや破損のおそれがあり危険です。



禁止 2人乗りをしない（道路交通法で禁止）

ハブステップの禁止

操縦が不安定で転倒したり、自転車事故・ケガや破損のおそれがあります。

禁止 片手運転、手ばなし運転をしないまた、かさ立ては使用しない

危ない時によけたり止まることができず、事故・ケガや破損のおそれがあります。必ず両手でハンドルをにぎってください。また、かさをさしたり、かさ立てを使用しての運転はかさが風を受けてあおられて、事故を起こすおそれがあるだけでなく、かさが他の通行者や物に当たるおそれがあります。雨や泥はねを防ぐにはレインウエアを着用してください。

禁止 夜間や暗いところでは無灯火で乗らない（道路交通法で禁止）

事故・ケガや破損のおそれがあります。

必ず前照灯（ランプ）を装備し、点灯してください。ランプが点かないときは降りて自転車を押してください。

禁止 犬などを引いて乗らない

バランスをくずして転倒し、事故・ケガや破損のおそれがあります。

禁止 手やハンドルに物をさげたり、かさなどを車体に差し込んで乗らない

車輪にものが巻き込まれたり、バランスをくずして転倒し、事故・ケガや破損のおそれがあります。

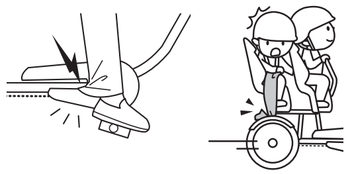
強制 段差に注意する

車体が干渉し破損するおそれがあります。

⚠ 警告（危険です!危ない乗り方をしないでください。）

禁止 車輪やチェーン・ギアに巻き込まれやすいものを接近させない（長いスカートやマフラー、すその広がったズボン、かさ、ペットのひもなど）

車輪やギヤに巻き込まれ、車輪がロックして転倒によるケガのおそれがあります。



禁止 自動車が渋滞しているときは、その前に割り込んだり、車の間をぬって前へ出ない

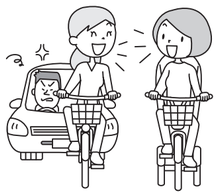
自動車に接触し事故を起こすおそれがあります。

禁止 自動車やオートバイのすぐうしろに続いたり、それにつかまって走らない

事故を起こすおそれがあります。

禁止 他の自転車と競争したり並んで走らない

事故を起こすおそれがあります。



禁止 ジグザグ運転はしない

事故を起こすおそれがあります。

禁止 飲酒運転や疲れが激しいときは乗らない（道路交通法で処分の対象になります）

事故を起こすおそれがあります。

禁止 走りながら携帯電話をかけたり操作しない（道路交通法で禁止されています）

片手運転と前方不注意により事故を起こすおそれがあります。

禁止 ヘッドホンやイヤホンを使用して乗らない

周囲の音が聞こえにくくなり、事故を起こすおそれがあります。

禁止 タバコを吸いながら乗らない

煙や吸い殻により、他人に迷惑がかかります。
また、タバコの火で他人に火傷をおわせるおそれがあります。
片手運転と前方不注意により事故を起こすおそれがあります。

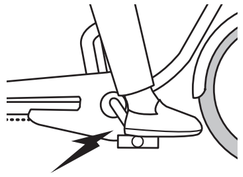
⚠ 警告（危険です!危ない乗り方をしないでください。）

禁止 飲食をしながら乗らない

片手運転と前方不注意により事故を起こすおそれがあります。

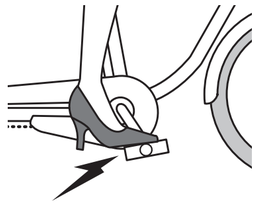
禁止 土踏まずやかかとでペダルをふまない

つま先が前輪や前ドロヨケに接触し車輪に巻き込まれて事故を起こす危険があります。
また、ドロヨケなどの部品を破損する恐れがあります。



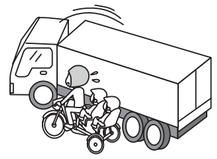
禁止 厚底靴やかかとの高い靴、サンダルなどすべりやすい靴で乗らない

ペダルから足が外れ、転倒するおそれがあります。



強制 交差点を通るときは左折車に巻き込まれないように注意する

事故による重大なケガのおそれがあります。

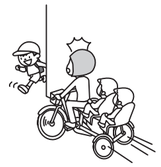


強制 車の横を走るときは開くドアや人の飛び出しに注意する

事故による重大なケガのおそれがあります。

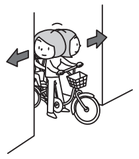
強制 学校や公園が近くにあるときは子どもの飛び出しに注意する

事故による重大なケガのおそれがあります。



強制 狭い道から広い道へ出るときは一時停止して安全を確保する

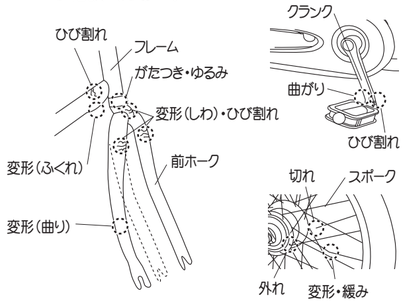
事故による重大なケガのおそれがあります。



⚠ 警告（危険です!乗る前に必ず点検してください。異常を発見したらそのまま使用せず、必ず販売店に修理を依頼してください。）

禁止 フレーム・前ホークやクランク、ペダルなどの部品に変形やひび割れ、ねじのゆるみ、パンクなど異常があるときは乗らない

事故・ケガをおこすおそれがあります。
異常を発見したら使用せずに、すぐ販売店にご相談ください。



禁止 改造・分解・ハブステップの装着および指定箇所以外の調整はしない

正しく動かなかったり部品が外れたりして事故・ケガのおそれがあります。

禁止 ハンドルやサドルのポストは限界標識がかくれるまで差し込まれているか

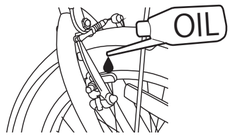
ハンドルや、サドルのポストの折れや抜けにより事故・ケガのおそれがあります。

禁止 ブレーキはよくきくか

止まれずに衝突して事故・ケガのおそれがあります。

禁止 ブレーキの制動面（ブレーキシュー等）に油をつけない

ブレーキに油がつくとブレーキがきかなくなり、事故・ケガをおこすおそれがあり危険です。



禁止 前輪・後輪の固定は十分か

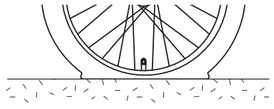
走行中に外れて事故・ケガをおこすおそれがあり危険です。

禁止 ハンドル・サドル・グリップの固定は十分か

操縦できなくなり、事故・ケガのおそれがあります。

禁止 タイヤの空気圧は十分か

パンクしやすく、タイヤの摩耗が早くなります。



⚠ 警告（安全のため必ずお守りください!）

強制 乗る前の日常点検・初回点検・定期点検は必ず実施する

長く使っているとネジがゆるんだり調整がズレたりしてきます。必ず実施してください。

強制 衝突や転倒したときは必ず点検する

異常を発見したら使用せずにお店に相談する。

■次のような場合は外観上異常が無くてもお店に相談する。
- ●車輪が変形するような衝突や段差の乗り上げ・落下や転倒したとき。
- ●ペダルやクランクに強い衝撃が加わったとき（欠損によるケガのおそれがあります。）
- ●走行中に異常な音がした場合。

強制 本書に記載の取扱い方法を守る

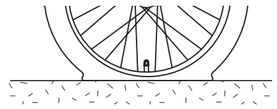
間違った取扱いをすると事故・ケガのおそれがあります。

強制 交通ルールを守る

交通ルールを守らないと事故でケガをしたり、他の人にケガを負わせるおそれがあります。
→ 15・16ページ参照

強制 走行するとき

タイヤに十分空気を入れてから乗る。
自転車がこわれて事故・ケガをおこすおそれがあり危険です。
（空気圧が低いと早くタイヤが減り、パンクもしやすくペダルが重くなります。）
→ 22ページ参照



強制 ブレーキをかけるとき

- ●いつでもブレーキレバーを握れるようにして乗る。
- ●ブレーキは先に後ろブレーキをかけてから前後ともブレーキをかける。
（片方だけかけるとスリップして危険です。）
- ●急ブレーキをかけないでいいように、いつも前方に注意してスピードをひかえめにする。
- ●雨天時はブレーキがききにくくなるので、ゆっくり走行する。

強制 カーブを曲がるときは

- ●カーブを曲がっている間は、ペダルを止める。
（車体が傾いている側のペダルが下になっているとペダルが路面に当たるので危険です。）
- ●カーブで急ブレーキをかけない。
（横滑りして危険です。）
- ●急旋回しない。
- ●カーブを曲がるときは手前で十分スピードを落とす。

⚠ 警告（安全のため必ずお守りください!）

禁止 走行目的以外の使用

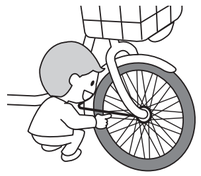
踏み台など走行目的以外に使わない。
（転倒してケガのおそれがあります。）

禁止 自転車の周りで子どもを遊ばせない

事故による重大なケガのおそれがあります。

禁止 回転部分は手や足を入れない

お子様がそばにいるときは、特に注意する。
（はさまって大ケガをします。）



禁止 スポークの間に物を入れたり、はさんだりしない

車輪にはさまって転倒してしまいます。

禁止 風・雨・雪がひどいときや視界が悪いときはムリに乗らない

自転車から降りて押して歩く。

禁止 荷物を積むときは次のことに注意する

- ●積載条件（荷物の重さや大きさ）から外れる荷物を積まない。
- ●荷物は片寄らないように荷ひもでしっかり固定し歩行者の迷惑にならないようにする。
- ●荷物でリフレクタが隠れないようにする。
- ●まえ用バスケットは高さ・前後・左右ともにバスケットからはみ出さないこと。

禁止 お子様だけで乗り降りさせない

転倒や落下してケガのおそれがあります。

禁止 お子様の手の位置に注意する

サドルとの間に挟んでケガのおそれがあります。

禁止 お子様をリヤキッズシートに2人乗せるときは、前方のリヤキッズシートからのせる

前車輪が浮き上がって、転倒したりバランスをくずしてケガのおそれがあります。
お子様を降ろすときは後方のリヤキッズシートからおろしてください。
お子様の体重が異なる場合は、体重の重いお子様を前に乗せてください。

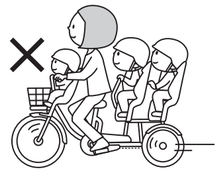
リヤキッズシートについて

（自転車用リヤキッズシートを取付けることで、お子様と同乗できます。）

⚠ 警告
指定されたリヤキッズシートと定員を守ってご使用ください。
使用前にリヤキッズシートに付属の取付け取扱書をよく読み、内容を理解してから使用してください。

禁止 フロントベビーシートの取り付けや自転車の改造は絶対にしないでください。

禁止 4人乗りはしないでください。（道路交通法で禁止）



禁止 お子様が1人の時は前席に乗せましょう。

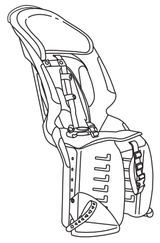
重心が中央に寄り前車輪の浮き上がりを防ぎます。

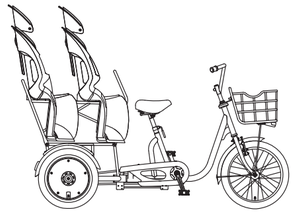
強制 乗せ降ろしの時はヘッドレストに注意してください。

頭や顔をぶつけることがあります。

お子様を2人乗せるとき

■ OGK
RBC-011DX-TW（ふたごじてんしゃ専用リヤキッズシート）





お子様を1人だけ乗せるとき

■ OGK
RBC-016DX（ヘッドレスト付ファーストリヤベビーシート　”ハニカム”）
RBC-011DX3（ヘッドレスト付コンフォートリヤキッズシート）
RBC-015DX（ヘッドレスト付カジュアルリヤキッズシート）
RBC-007DX3（ヘッドレスト付デラックスリヤキッズシート）
RBC-009DX3（ヘッドレスト付リヤキッズシート）
RBC-009S3（リヤキッズシート）

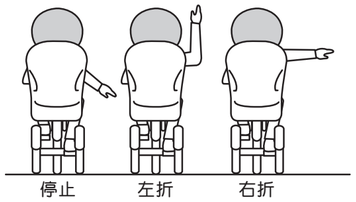
交通ルールとマナー

ケガや迷惑をかけないためにも、交通ルールやマナーを守りましょう。

ここに掲載していることは、交通ルールとマナーの一部です。道路交通法と各自治体の条例をよく確認の上、正しく乗車してください。わからないことがあったら、最寄りの警察署にご相談ください。

1.自転車の正しい乗り方

●発進するときは、見通しのきく道路の左側で、後方と前方の安全を確かめる。
●右折、左折をするときは、早目に合図する。
●停止するときは、安全を確かめて停止の合図を行い、道路の左側に沿って停止してください。

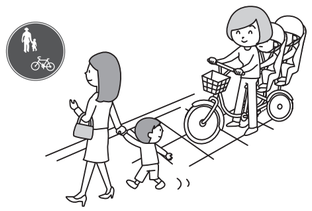


2.自転車の通るところ

●車道を通るときは、車道の左側に沿って通行する。
●自転車は路側帯を通ることができますが、歩行者の通行に大きな妨げになるところや、白二本線の表示のあるところは通れません。
●自転車歩道通行可の標識のある歩道は、つぎの方法により通行することができます。
・道の車道寄りの部分を徐行する。
・歩行者の通行を妨げるおそれのある場合は一時停止する。
●自転車道のあるところでは、自転車道を通る。
●道路を横断するとき、近くに自転車横断帯があれば、自転車横断帯を通る。
自転車横断帯がなく近くに横断歩道があるときは、自転車を押して横断歩道をわたる。

3.自転車が通行できる歩道、路側帯を通るときの注意。

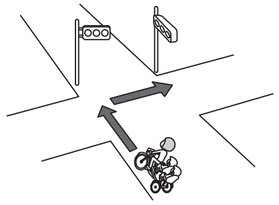
●信号などや交通整理が行われているところ。
●歩行者の通行を妨げない。
●こども、身体の不自由な人が歩いているときは、一時停止か十分速度を落とす。



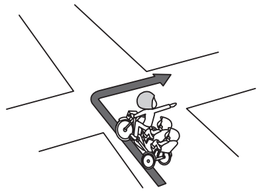
4.交差点の通り方

●右折の方法

信号のあるところ。



信号がなく交通整理がおこなわれていないところ。



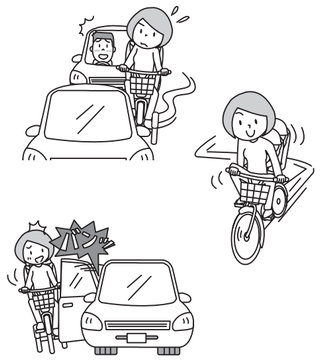
●自転車横断帯があるときは、その自転車横断帯を通る。
●自転車侵入禁止標識のある交差点では、左側の歩道に乗り入れて自転車横断帯を通る。

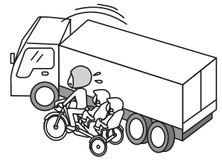
5.自転車を駐輪するときの注意

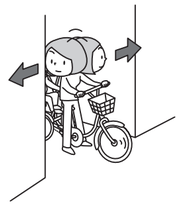
●自転車を駐輪するときは、歩行者や車の通行の妨げにならないように注意し、必ずカギをかける。
自転車駐輪場がある場合にはそこに置いて、パーキングストッパーをかける。

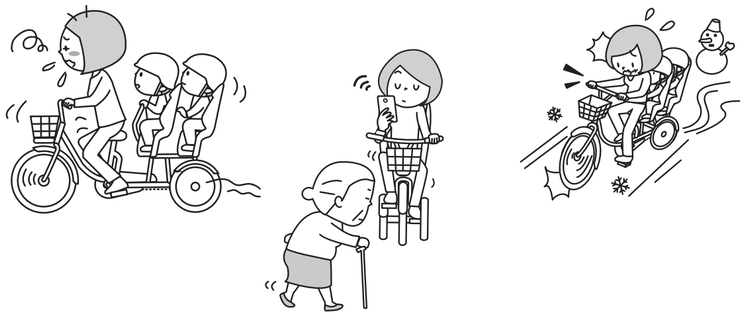
6.走行中の注意

●自動車のすぐうしろに続いたり、それにつかまって走らない。
●自動車が渋滞しているときは、その前に割り込んだり、車の間をぬって前へ出ない。
●他の自転車と並んで走ったり、ジグザグ運転をしたり、競争をしない。
●横断、転回する場合は、自転車横断帯か横断歩道をわたる。これらがないところでは見通しのきくところで車のとぎれたときにわたる。
●止まっている自動車のそばを通るときは、急にドアが開いたり、かげから歩行者がとびだしたりするので、注意する。
●交差点近くでは、左折自動車に巻き込まれないように注意する。
●一時停止の標識のあるところや狭い道から広い道へ出るときは、一時停止して安全を確認する。
●自転車に乗るときは、運転者から見やすいように明るい目立つ色の衣服を着る。
●路面の凍結や工事中の鉄板ですべりやすいところや、風雨・雪の強いとき、視界が悪いときは、自転車を押して歩く。
●曲りかどや障害物で見通しの悪いところでは、スピード落として注意して通る。
●酒を飲んだ時や疲れの激しいときは乗らない。
●走りながら携帯電話やスマートフォンを使用したり操作しない。







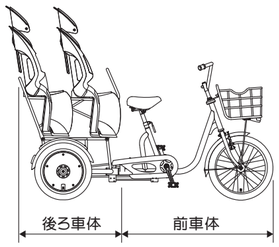


ふたごじてんしゃの構造と特徴

ふたごじてんしゃは普通自転車や幼児用三輪車とは構造や走行性能が異なりますので、ご注意ください。

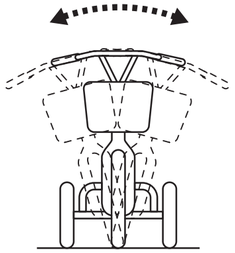
TWB-001（後二輪式）

●このふたごじてんしゃは「前車体」と「後ろ車体」で構成されており、スイング機構を装備しています。この機構により、前車体は後ろ車体に対して、ある程度柔軟に左右に傾き、また傾いても元に戻ろうとする復元力が働きます。
（但し、自転車に乗れない方の一時的な練習用として、スイングストッパーを使用すると、スイング機構は働かなくなります。）



A.通常使用時（スイングストッパーを使用しない時）

●乗員が体を左（右）に傾けると、前車体も左（右）に傾きますが、バネの力により元に戻ろうとする復元力が働きます。
●段差に乗り上げたときや凸凹道を走行したり、カーブ走行などで前車体が傾くとチェーンがチェーンカバーに触れて音がする場合もありますが異常ではありません。

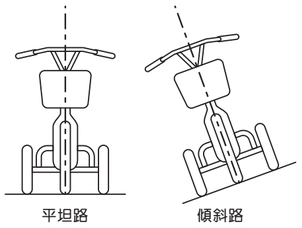


B.スイング固定時（スイングストッパー使用時）

注意

■スイングストッパーの使用について
・自転車に乗れない方でも、スイングを固定の状態であれば、補助車輪付き幼児車のような感覚で乗ることができます。
・スイングを固定した場合は、車体が左右に傾かなくなるため、操作性や安定性が悪くなりますので、カーブでは充分に減速してください。転倒するおそれがあります。
・スピードは必ず5km/h以下（歩く程度の速さ）としてください。
・乗り慣れてきたら、なるべく早くスイングストッパーの使用を中止してください。

●前車体はスイングストッパーで後ろ車体に連結されますので、スイング機構は働きません。
●路面が左右に傾いている傾斜路では、自転車全体も路面と同じに傾きます。
●段差に乗り上げたときや凸凹道を走行するとチェーンがチェーンカバーに触れて音がする場合もありますが異常ではありません。



傾斜や凸凹のある路面でのふたごじてんしゃの特性

警告

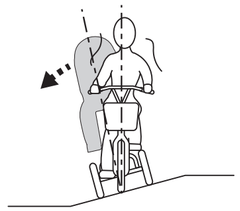
●ふたごじてんしゃは路面の傾斜や凸凹の影響を受けやすく、車体が傾むくとハンドルを取られやすくなり、普通自転車にくらべて運転しにくくなります。
●路面の傾斜や凸凹が大きい場合は転倒する危険がありますので、その場合はふたごじてんしゃから降りて押して歩いてください。

A.通常使用時（スイングストッパーを使用しない時）

●路面の傾斜により後ろ車体が傾きます。しかし、スイング機構があるので、運転者がバランスを取ることにより、ある程度、前車体を立て直しながら乗車することができます。

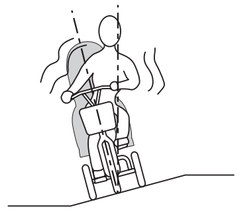
注意　重力の影響により下側へ引っ張られる感じがします。

→ 6ページ参照



B.スイング固定時（スイングストッパー使用時）

●前後車体がスイングストッパーで固定されているため、スイング機構は働かず、路面傾斜とほぼ同じ角度に車体全体が傾きます。
●乗員が傾斜と逆方向に体でバランスを取る必要があります。
●路面の傾斜の方向にハンドルを取られる傾向があります。

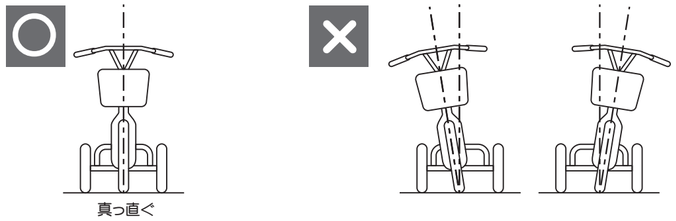


■正しい取り扱い　わからないときは販売店にご相談ください。

スイングストッパーの使い方

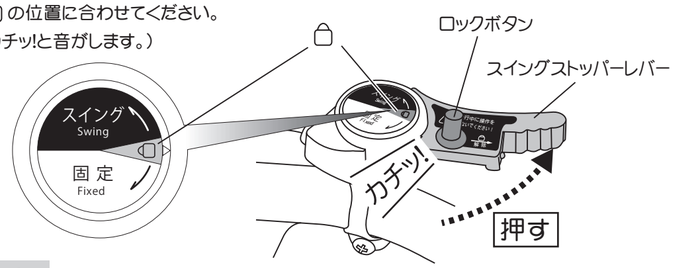
強制　ふたごじてんしゃの構造と特徴をよく理解してから使用してください。

注意　前車体と後ろ車体を真っ直ぐにしてから操作してください。
故障の原因になります。



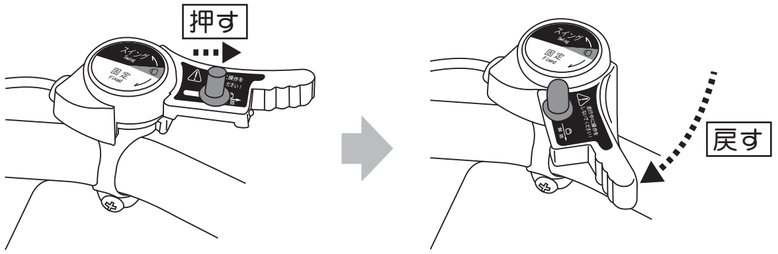
スイングさせるとき

スイングストッパーのレバーを前方へ押し、
ロックボタンを 🔒 の位置に合わせてください。
（位置があえばカチッ!と音がします。）



固定させるとき

ふたごじてんしゃの車体を真っ直ぐにしてスイングストッパーのロックボタンを右方向へ
押してロックを解除し、レバーを手前に戻します。



パーキングストッパーの使い方（前輪をロックする）

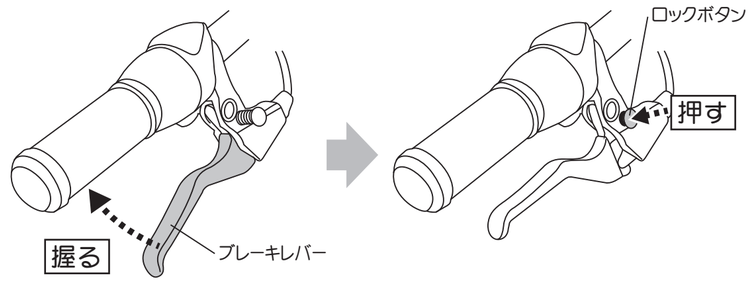
注意　駐輪時はパーキングストッパーを必ずかける。

- ふたごじてんしゃにはスタンドがないので、パーキングストッパーをかけないと、ひとりでに動き出して事故のおそれがあります。
- ふたごじてんしゃから離れるときは、パーキングストッパーが効いていることを必ず確認してください。
- パーキングストッパーをかけるときは錠も必ずかけるようにしてください。
（鍵はお客様で準備してください。）
いたずらによるストッパー解除のときに役立ちます。

ロックするとき

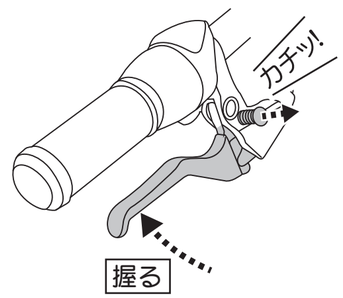
ブレーキレバーを握り、ロックボタンを押すとブレーキがかかった状態になります。
（パーキングストッパーは右ブレーキレバーに付いています。）

① ブレーキレバーを握る。
② ロックボタンを押す。
③ ブレーキレバーから手を離す。
④ ロックボタンから手を離す。



ロックを外すとき

パーキングストッパーの解除は、ブレーキレバーを握れば音がしてロックボタンは自動的に解除されます。



内装変速機の使い方

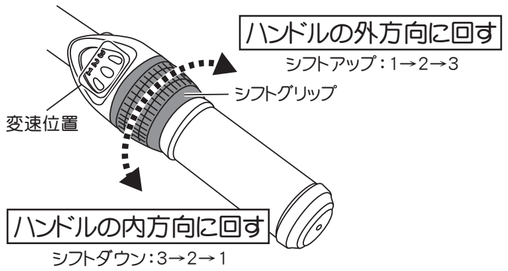
◆内装変速機は「坂道」や「風向き」など走行条件の変化に応じてギヤ比を変え、ペダリングの速さと重さを一定にして、疲れを少なくすることができます。

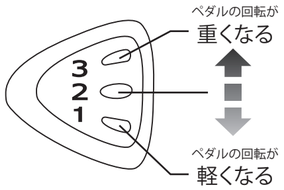
注意 シフトチェンジは、坂道の手前で早目に操作してください。

禁止 交差点や踏切など踏み出したときはチェンジしないでください。
チェンジミスが起き、ふらついて転倒したり、変速機が故障してしまいます。

禁止 急な上り坂や下り坂では自転車から降りて押してください。
ふらついたりスピードが出すぎて危険です。

《操作方法》
ペダルの踏み込みを止めて、シフトグリップを1段ずつゆっくり操作してください。
・位置決めの軽い手ごたえがあるまで回してください。

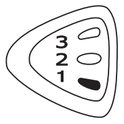




ペダルの回転が速く、
軽すぎるとき

ハンドルの外方向に回す
ペダルの回転が重くなります。
ちょうどいい重さのギヤを
選んでください。

発進前、上り坂、向い風など
ペダルの回転が重いとき



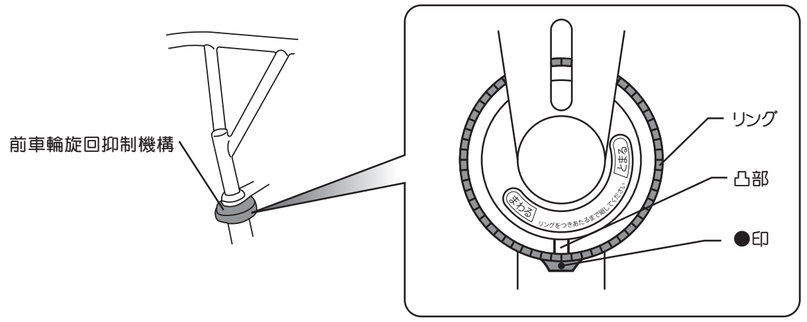
ハンドルの内方向に回す
ペダルの回転が軽くなります。
ちょうどいい重さのギヤを
選んでください。

前車輪旋回抑制機構の使い方

◆前車輪旋回抑制機構は駐輪時に、ハンドルのふらつきや回転を抑止します。

注意 走行前に必ずハンドルがまわる状態にしてから走行してください。
走行中や発進時には作動させないでください。

《操作方法》
ハンドルをまわすときはリングの赤い●印を時計まわり（まわる側）にまわし、
凸部と●印があっていることを確認してください。



タイヤへの空気補充の仕方

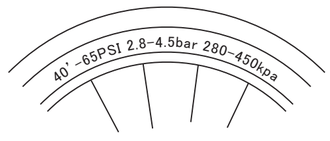
注意 空気圧が少ないと、タイヤの接地面積が広くなって走行抵抗が増し、ペダリングが重くなります。
また、タイヤの摩耗やパンク、リムの変形の原因になります。必ずタイヤに表示している空気圧の範囲内で使用してください。

強制 お買い上げいただきました自転車のバルブは米式です。種類にあった口金のポンプで空気を補充してください。
ポンプの口金は製造メーカーによって異なりますので一例を示します。詳しくはお店にご相談ください。

バルブの種類		ポンプ（口金）の種類	空気の入れ方
米式	キャップ バルブ本体	（例） 口金	●バルブ本体にポンプの口金を取付けて空気を入れ空気圧を確認する。 ●自動車・オートバイと同じ構造なのでガソリンスタンドでも空気入れが可能。

適正な空気圧

●タイヤ側面に刻印されている標準空気圧に従ってください。
→ 26ページ参照



安全のための点検と整備

強制　乗るまえの「日常点検」と「初回点検」「定期点検」を必ず実施してください。

「ふたごじてんしゃ」は一般の自転車と構造、機能が異なり、自転車に乗られていた方も乗車感が一般の自転車に比べ操作性が悪く、操縦が難しい場合がございます。公道で使用する前に必ず安全で平坦な場所で十分練習を行ってください。
また、不具合・異常につきましては、先ず販売店にご相談、ご連絡ねがいます。
次に「ふたごじてんしゃ」を長く安全に使用いただくために、「日常点検」について紹介していきます。

日常点検の目的

自転車を常に点検して適正な状態を維持することは使用者の責任と義務でありそのために日常点検は欠かせないものです。自転車が適正でないと、修理費用が発生したり自身の安全や日常のスケジュールが乱れるのはもちろんのこと、本人や周囲の方々も巻き込んでしまう恐れがあります。一時の誤りが一生の後悔にならないよう、自転車を日常点検することは大事なことです。

日常点検の内容

「日常点検」は基本的には、使用者が自転車のまわりをまわって、目視による「外観チェック」と簡易操作による「作動チェック」を「日常点検」として実施いただきます。くわしくは別紙「ふたごじてんしゃ　点検・整備チェックリスト」の点検項目に従いご乗車前に必ず実施ください。
（点検を実施するにあたり、メンテナンス担当よりアドバイスを受けながら実施されることが望ましいです。）
→ 25~27ページ参照

定期点検・調整

「定期点検・調整」とは長く安全にご愛用いただくために販売店(自転車安全整備士)が行う点検・整備のことです。
本車の「定期点検・調整」は次ページに記載しています。
→ 33~34ページ参照

【日常点検】

●乗るまえに必ず点検し、安全を確かめてから乗ってください。
異常を発見したら、必ず各部の調整方法により調整するか、それ以外は自転車販売店に修理を依頼してください。

【初回点検】

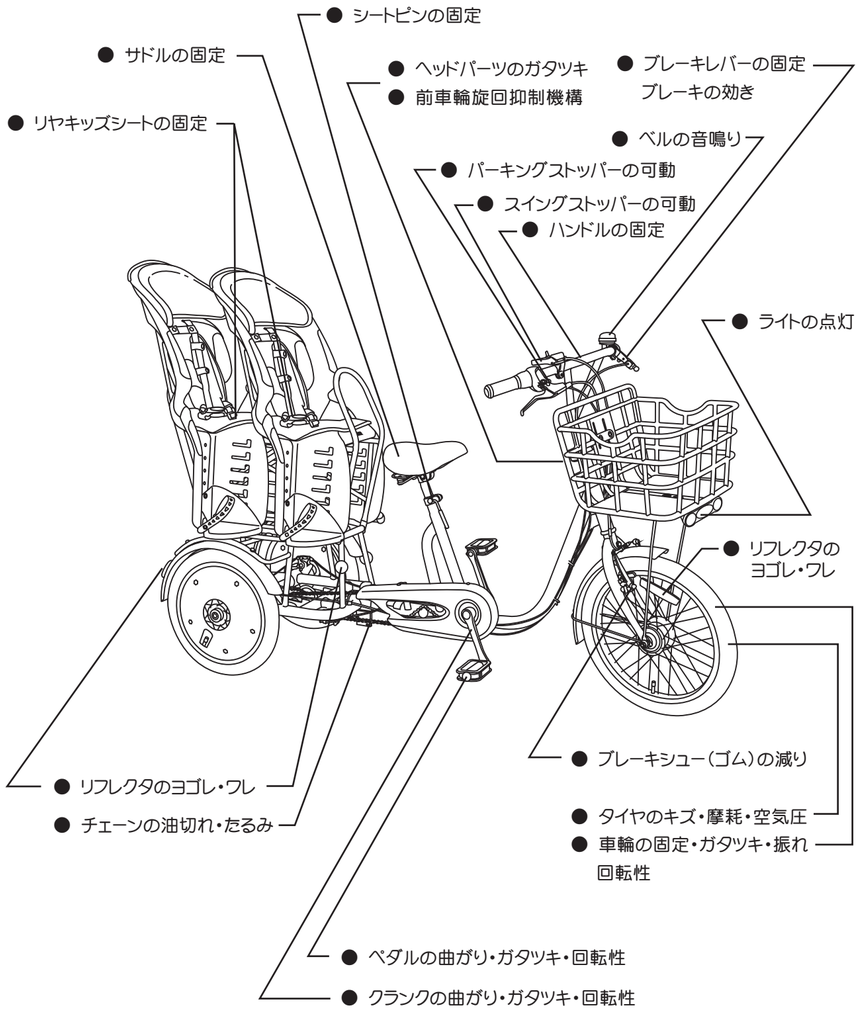
●購入後100km到達時または、2ヵ月以内に点検を受けてください。
初期の内には特にネジがゆるみやすいので、必ず自転車販売店で点検を受けてください。

【定期点検】

●必ず自転車販売店で定期点検(6ヶ月ごと)を受けてください。
安全に長くお使いいただくために必ず点検を受けてください。
長い間使用せず、再び使用するときも点検を受けてください。

各部の点検

調整が必要なときは販売店にご依頼ください。



■日常点検の方法

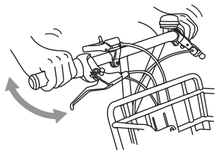
ハンドル・サドル

●ハンドル・サドルの組付け

禁止　挿入不足で使用しない。

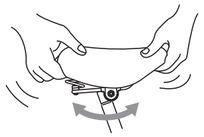
※はめ合わせの限界標識がかくれるまで差し込まれていること。
※ハンドルが前輪に直角に固定されていること。
※サドルがフレーム中心とあっていること。
※サドルにすわってブレーキやハンドルをムリなく操作できること。

ハンドルの固定
（前輪を足で固定してハンドルを動かしてみる。）



※力を入れてもハンドルのみが回らないこと。

サドルの固定
（サドルの前後を持って動かしてみる。）

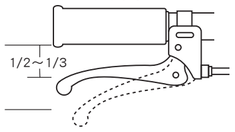


※力を入れても回らないこと。

ブレーキ

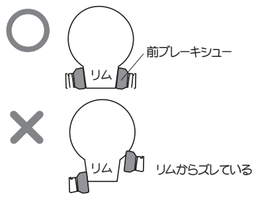
強制　ブレーキワイヤーは消耗品です。異常がなくても2年に1度は交換してください。

●ブレーキのきき具合



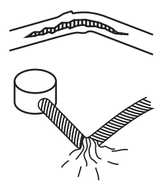
※すきまが1/2～1/3になるまでにブレーキがよくきくこと。
※レバーの作動が重くないこと。

●前ブレーキシュー（ゴム）当たり



※ブレーキを掛けた時にブレーキシュー（ゴム）がキチンとリムに当たること。

●ワイヤーのサビ・切れ

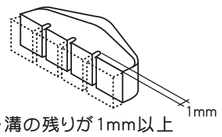


※サビ・切れ・ほつれ・折れがないこと。

●レバーの固定
（指で押してみる）

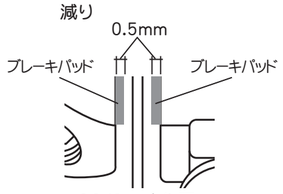
※ズレ動かないこと。

●前ブレーキシュー（ゴム）の減り



※溝の残りが1mm以上あること。

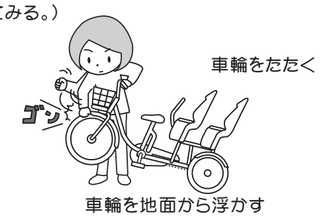
●後ろブレーキパッドの減り



→ 29ページ参照

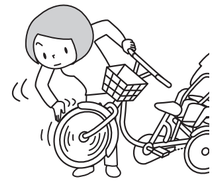
車 輪

●固定（自転車を持ち上げて車輪を上から強くたたいてみる。）



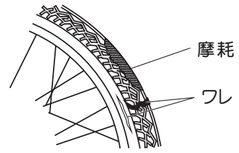
※車輪がズレたりガタついたりしないこと。

●振れ・ガタ・回転性
（自転車を持ち上げて回してみる。）



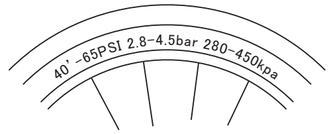
※スムーズに回転し大きな振れやガタがないこと。

●タイヤのキズ・摩耗



※コードが見える深いワレや摩耗がないこと。
※接地面の模様が充分残っていること。

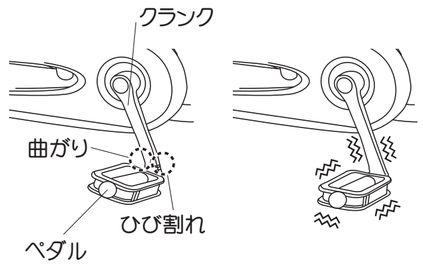
●空気圧



※十分空気が入っていて、タイヤに表示してある空気圧になっていること。
（図の数値は表示の例）

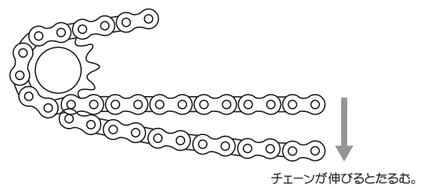
ギヤクランク・ペダル、チェーン

●ギヤクランク・ペダル



※クランク・ペダルにガタがなくスムーズに回転すること。
※ギヤクランクに変形やひび割れがないこと。

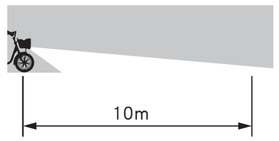
●チェーン



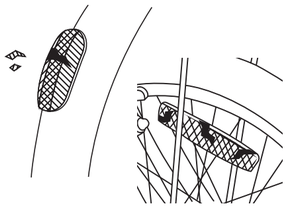
※油切れがなく、上から押してみたときにうごくこと。
※チェーンが大きくたるんでいないこと。

ライト・リフレクタ・ベル

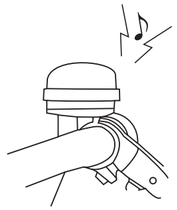
●ライト
※明るく点灯し、10m前方の路面を照らすこと。
但し、対向者（車）に眩しくならない角度に調整してください。



●リフレクタ
※必ず装着されてあり、後ろからよく見えること。
※レンズの汚れワレがないこと。



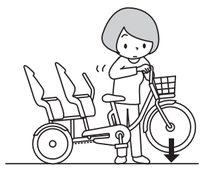
●ベル
※ベルが必ず装備されてあり、よく鳴ること。

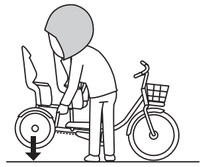


各部のネジのゆるみ

●ヘッド部のゆるみ、ガタつき
左右のブレーキレバーをグリップ、自転車を前後にゆする。
※ガタつきやヘッドがゆるんでいたりすると部品がこわれてしまいます。

●各部のネジのゆるみ
（10cmほど持ち上げて軽く落とす）
※変な音がしないこと。
変な音がしたらネジがゆるんでいるおそれがあります。





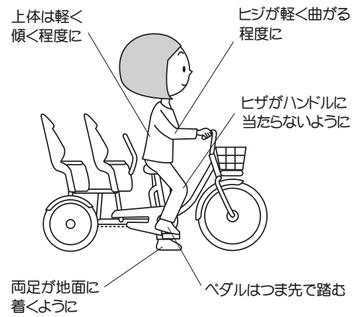
■各部の調整方法

安全を確保するために、各部の調整は注意点を守って確実に行ってください。
怠りますと思わぬ事故につながります。ご不明な点がありましたら、お店にご相談ください。
また、調整はお子さまにはさせないようにしてください。

⚠ 注意（安全のために必ずお守りください!）

正しい乗車姿勢

サドルに腰をおろし両手をグリップにおいた状態で、
①両足の裏全体が確実に地面につくこと。
②上半身が少し前に傾き、ヒジが軽く曲がること。
③ペダルをこいだときにヒザがハンドルに当たらず、安全にハンドルの操縦操作ができること。
④円滑にペダルをこぐことができ、ブレーキ、シフトレバー、ベルなどが安全に操作できること。

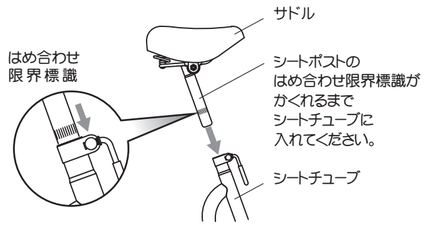


サドル調整のしかた

サドルの高さ

⚠ 警告 最も高くした場合でも、シートポストのはめ合わせ限界標識がかくれるまでシートチューブに挿入してください。
限界標識が見えていると、サドル（シートポスト）の折れや抜けにより事故・ケガのおそれがあり危険です。

《調整方法》
①右側のシートピンレバーをゆるめるとサドルを上下に調整できます。
②固定するときは、右側のシートピンレバーを締め付けて固定してください。

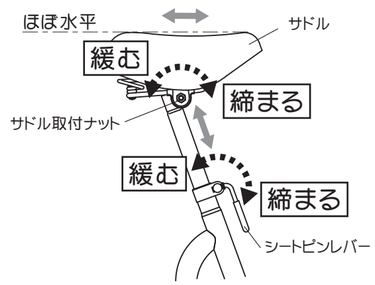


サドルの前後調整と取付角度

◆ペダルをななめ前のいちばん力を入れやすい位置にして足をのせたとき、ひざの中心の真下にペダルの中心があるのが最適です。
サドルの取付角度は、サドル上面がほぼ水平になるようにしてください。

《調整方法》
①サドル取付ナットをスパナでゆるめて前後位置と取付角度を調整してください。
②固定するときはスパナでサドル取付ナットを締め付けて固定します。

⚠ 注意 サドルを後ろにし過ぎると、運転者とリヤキャリヤが接触することがあります。



ハンドル調整のしかた（調整は販売店にご依頼ください）

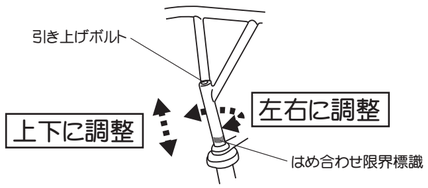
警告 最も高くした場合でも、ハンドルステムのはめ合わせ限界標識が見えなくなるまで挿入してください。限界標識が見えていると、ハンドルステムの折れや抜けにより事故・ケガのおそれがあり危険です。

調整方法

①引き上げボルトをゆるめるとハンドルを上下に調整できます。

② 固定するときは、ゆるめた引き上げボルトを六角棒スパナで締め付けて固定してください。

●引き上げボルトをゆるめてもハンドルポストが動かないときは、引き上げボルトの頭を木片やゴムハンマーなどで軽くたたいてください。

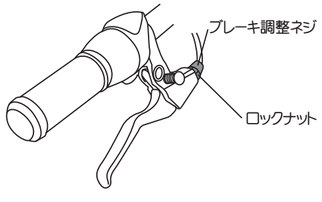


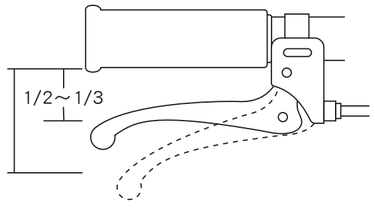
ブレーキ調整のしかた（調整は販売店にご依頼ください）

警告 長い間使っているとブレーキレバーのあそびが大きくなり、効きが悪くなってきます。また、使用によるなじみや摩耗でブレーキの効き具合は変わります。ブレーキが効き過ぎたり、効かなかったりする場合は販売店で点検してください。

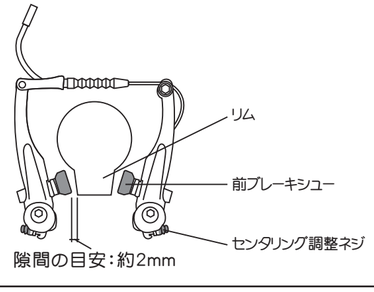
調整方法

前・後ブレーキ共にブレーキ調整ネジをゆるめるとブレーキレバーのあそびが少なくなります。ブレーキレバーを引いてすきまが1/2～1/3になるまでにブレーキがきくように調整してください。ブレーキ調整ネジにロックナットが装着されていますので、一度ロックナットをゆるめてからブレーキ調整ネジを調整してください。調整後はロックナットを締め付けてください。

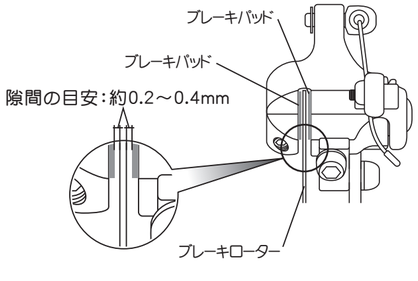




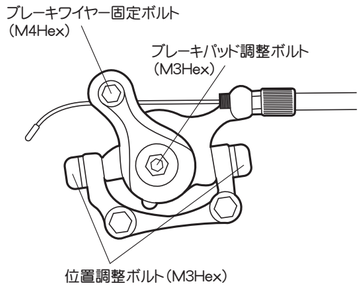
前ブレーキ　Vブレーキ



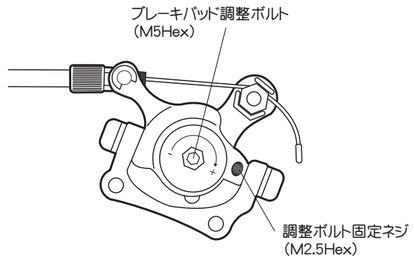
後ろブレーキ　ディスクブレーキ



ディスクブレーキの調整箇所（調整は販売店にご依頼ください）



チェーン側から見たとき



タイヤ側から見たとき

自動点灯式ライトの取扱い（調整は販売店にご依頼ください。）

警告 この自転車のライトは発電機を車輪に組み込んだハブダイナモ式発電ライトです。
下記の点は安全のためにも絶対に行わないでください。

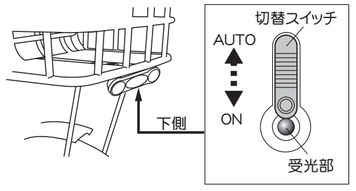
●ライトの取付けが緩んだまま走行しない。
前方を照らす角度が狂い、衝突や転倒によるケガのおそれがあります。
乗る前に必ず点検してください。

●目に光を当て続けない。
目を痛める原因になります。

●夜間や視界の悪いときは無点灯で乗らない。
衝突や転倒によるケガのおそれがあります。また、自動車を運転している人に自車の位置を知らせる役割もあります。
ライトがつかないときや点滅状態のときは、押して歩いてください。無点灯や点滅状態での夜間乗車は法令違反になります。

●走りながら、切り替えスイッチの操作やライトの角度調整をしない
衝突や転倒によるケガのおそれがあります。

切替スイッチの操作



切替スイッチ AUTO：受光部のセンサーが周囲の明るさを感知して、走行中には自動的に点灯し、停止すると消灯します。

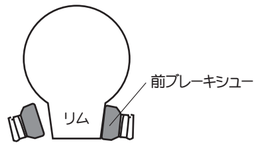
切替スイッチ ON：周囲の明るさを問わず走行中には常に点灯し、停止すると消灯します。

点灯の確認方法

切り替えスイッチで受光部を隠し（ON）、前車輪を浮かし回転させて点灯することを確認します。
注意：切り替えスイッチをAUTOにしているとき、受光部が汚れた場合は、柔らかい布で拭き取ってください。
受光部に汚れがあると、センサーが誤作動をすることがあります。

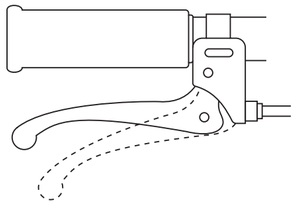
強制 つぎの場合にはお店にご相談ください。

●前ブレーキシューがリムに当たったままになっているとき。

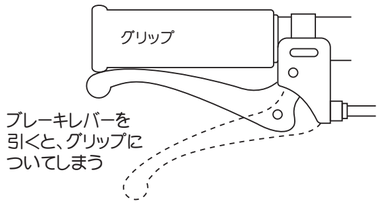


●前ブレーキをかけた状態でブレーキシューがリムからズレているとき。

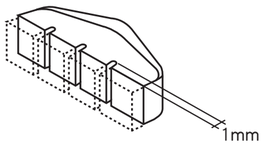
●ブレーキ調整ネジで調整しきれないとき。



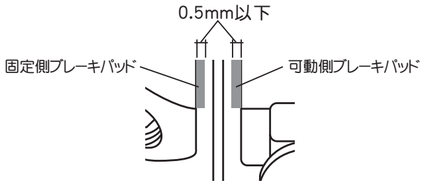
●ブレーキの効きが悪くなったとき。



●Vブレーキ（前ブレーキ）はシュー（ゴム）が摩耗して、溝の残りが1mmになったとき。



●ディスクブレーキ（後ろブレーキ）はブレーキパッドが摩耗して、厚みが0.5mm以下になったとき。



■お手入れと保管

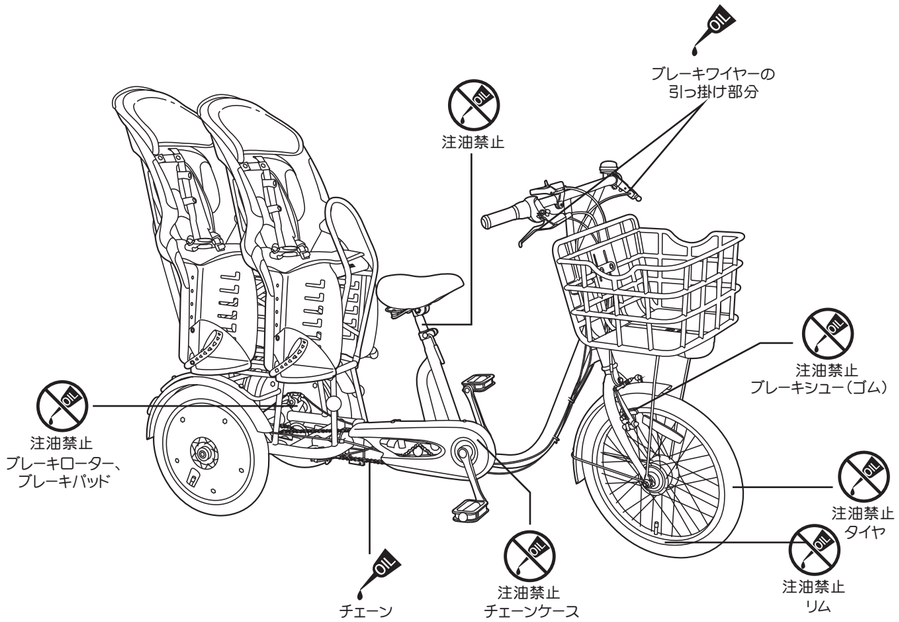
お手入れのしかた

乾いた布やブラシでホコリや汚れをよく落としてからお手入れしてください。汚れがひどいときは水洗いしてよく乾かしてください。

⚠ 警 告

注油禁止箇所　注油禁止　この記号の箇所には絶対に「油」や「グリス」をつけないでください。

注 油 箇 所　この記号の箇所に注油してください。（1~2ヶ月に1回程度）



●つや消し塗装部には、ワックスを使用しないでください。
また、塗装部は、「自動車用ワックス（メタリック用）」をご使用ください。

⚠ 注意　絶対にタイヤにワックスをつけないでください。タイヤにひび割れが生じます。

●メッキ・ステンレス部は「サビ止め油」や「機械油」を少しふくませた布でふいてください。
●海岸、湿気の多いところ、工業地帯、便所や浄化槽の近くなどサビやすいところにおくときは、お手入れの回数を多くしてください。
●プラスチック部分には油分をつけないでください。ヨゴレがついた時は水を含ませた雑巾等で拭取ってください。
シンナー・ベンジン等は付着させないでください。

【保管するときは】

●メッキ・ステンレス部は「サビ止め油」や「機械油」を少しふくませた布でふいてください。
●雨のかからない乾燥した場所に保管してください。屋外に保管されている場合にはサイクルカバーやビニールシートを使用してください。

点検・整備チェックリスト

（販売店にチェック・記入を依頼してください。定期点検・整備の料金は、お買い上げの販売店までお問い合わせください。）

✓:異状無し　A:調整、注油　△:修理　×:交換　C:掃除その他　—:装着されていない部品

点検の箇所	点検項目	販売時	1回目 2カ月	2回目 6カ月	3回目 1年	4回目 1年半	5回目 2年	6回目 2年半	7回目 3年
フレーム・前ホーク	変形、折損、ひび割れは無いか	＼							
	ヘッド、ハンガー小物にがたつきや摩耗は無いか	＼							
ヘッド部分	ヘッドチューブの下玉押しにガタツキは無いか								
	緩みはないか	＼							
ハンドル	固定は確実か、高さ、ハンドルステムの挿入量は適正か	＼							
	変形、折損、軽く回転するか								
グリップ	ひび割れ、挿入不足は無いか	＼							
	回転は無いか								
前車輪旋回抑制機構	作動は確実か								
フロントバスケット	変形、折損、ひび割れ、ガタツキは無いか	＼							
	取り付けは適正か	＼							
どろよけ	変形、ガタツキ、曲がりは無いか	＼							
	取り付けは適正か	＼							
	タイヤに当って無いか								
	どろよけとタイヤの隙間に不要なモノが挟まって無いか								
リヤサブフレーム	変形、ガタツキ、折損はないか	＼							
	取り付けネジの緩みは無いか	＼							
スウィングストッパー	作動は適正か								
	操作レバーの取り付けは適正か	＼							
	作動は正常か								
	変形、ガタツキは無いか	＼							
	スウィングストッパーを使用しているときは前車体が後車体に対して大きく傾いていないか								
車輪（前後）	固定は確実か								
	フレーム、前ホーク、どろよけ、キャリヤに接触していないか								
	ガタツキは無いか	＼							
タイヤ	切傷、摩耗は無いか								
	空気圧は適正か								
	タイヤに異物は付いて無いか								
リム	変形、振れは無いか								
	摩耗は無いか	＼							
スポーク	緩み、変形、折損、外れは無いか	＼							
ハブ	ハブナットとボルトの緩み、玉押しのガタツキは無いか	＼							
クランク	亀裂、曲がり、変形は無いか	＼							
	ガタツキは無いか、締め付けは十分か	＼							
ペダル	固定は確実か、取付部（クランク側）にバリはないか								
	回転は正常か	＼							
	変形、カシメ、ネジの緩み、ガタツキ、折損は無いか	＼							
チェーンケース	変形は無いか	＼							
	チェーン、クランク、ギヤとの接触は無いか								
	クランクの回転時に異音は無いか								

点検の箇所	点検項目	販売時	1回目 2カ月	2回目 6カ月	3回目 1年	4回目 1年半	5回目 2年	6回目 2年半	7回目 3年
ブレーキ	ブレーキレバーはしっかり固定されているか（左右）								
	利き具合は適正か（左右）								
	レバーの引き代に余裕はあるか（左右）※約15mm								
	ワイヤ類に錆びやほつれは無いか（左右）								
	ブレーキシューがリム側面に沿ってよく固定されているか								
	前輪のブレーキシューで回転時にリムに接触が無いか								
	ブレーキシューのゴム部が減りすぎて無いか								
	後輪のディスクブレーキ、ローターに異物が付着して無いか								
	パーキングストッパーの作動は正常か								
変速機	作動は確実か								
チェーン	時計回りの時に空回りが無いか								
	油切れ、錆、たるみは無いか	＼							
	ギヤとの噛み合わせは適正か								
	ギヤの歯飛びは無いか								
	回転時に異音が無いか								
	ギヤとチェーンに異物が付着して無いか								
	チェーンケースとの接触が無いか								
トーションバー	変形、折損、ひび割れは無いか	＼							
	取り付けネジの緩みは無いか	＼							
サドル	固定は確実か、高さ、シートポストの挿入量は適正か								
	取り付け位置、ガタツキ、損傷は無いか	＼							
ライト	点灯、照射は正常か								
	破損は無いか、コード切れは無いか								
	取り付けネジの緩みが無いか								
リフレクタ	汚れは無いか								
	ガタツキ、破損は無いか	＼							
	取り付け角度は適正か	＼							
	取り付けネジが緩んで無いか								
ベル	作動は正常か								
	変形、緩みは無いか	＼							
	よく鳴るか								
チャイルドシート（※RBC-011DX-TWが装備されている場合）	取り付けネジが緩んで無いか 専用リヤキャリヤと確実にネジで固定されているか								
	シートベルトのねじれが無いか								
	安全ベルトがしっかりと繋がっているか（前側のチャイルドシート）	＼							
	チャイルドシートのステップが適正な位置であるか								
	足固定ストラップの折損、ねじれ、亀裂が無いか								
	ヘッドレストの上下可動、ロックは適正か								
	ベルトバックルが確実に着脱できるか								
	シートベルトの長さ調整は適正か								
その他	各部のネジの緩み、損傷は無いか								

実施者氏名	実施日	年 ／	年 ／	年 ／	年 ／	年 ／	年 ／	年 ／
車体ナンバーを転記してください。（ヘッドパイプ下端に刻印されています。） 品番　TWB-001　　車体ナンバー	確認印	㊞	㊞	㊞	㊞	㊞	㊞	㊞

【品質保証規定】

保証の適応除外

次に示すものに起因する故障は保証修理の対象となりません。（使用者負担になります。）

ア.使用者の使用上の不注意によるもの。

イ.衝突、転倒、道路の段差等に乗り上げ、または溝等に落ちて生じたもの。

ウ.法令の違反行為によって生じたもの（最大積載量オーバー、定員オーバー等）。

エ.保守、整備の不備または間違いにより生じたもの。

オ.当社が指定する定期点検調整を実施しなかった場合。

カ.使用者が構造、機能を改造または変更したため生じたもの。

キ.酷使または一般に自転車が走行しない場所での走行（道のない山岳ツーリング、道のない土手の傾斜等）により生じたもの。

ク.レンタサイクルなど不特定多数で使用される場合。

ケ.地震、落雷、火災、水害、公害、その他人災、天災、地変によって生じたもの。

コ.手入れ不十分、保管場所の不備及び時の経過により生じた塗装面、メッキ面、その他これに類する不具合及びプラスチック部品等の自然退色。

サ.部品の通常の摩耗または疲労と認めたもの（タイヤ、チューブ、ブレーキ用ゴム等のゴム類）。

シ.くぎ、ピン、ガラス、切削くず、鋭利な石ころ等で生じるパンク。

ス.一般に機能上影響のない感覚的現象（音、振動等）。

セ.本保証書に示す条件以外の費用等。

ソ.この保証書は盗難保険ではありません。盗難保険及び防犯登録については販売店にご相談ください。

◇保証修理を受けるための条件及び手続き

・保証修理を受けるためには次のことがらをご了承願います。

・保証修理を受ける場合、本保証書と自転車をご持参ください。

・なお本証の提示がないと保証修理は受けられません。本保証書の字句等を変えた場合無効とします。

・ご贈答、転居及び他に譲渡する場合についてはお買い上げのお店にご相談ください。

・お買い上げの自転車は初回点検（2ヶ月以内）その後半年ごとの定期点検を受けてください。

・定期点検を受ける際には自転車と定期点検調整チェックリストを提示してください。定期点検、調整は有料です。

・この保証書は日本国内で使用される自転車で、車体ナンバーの刻印があるものに適用されます。海外に出す場合はその時点で打ち切りとなります。

・保証修理に関するお問い合せは、お買い上げ店でご相談ください。

・修理に関し出張修理の依頼を受けたときは、出張費を請求する場合があります。

保証対象外部品（次に示す物の、交換修理は使用者負担となります。）

バスケット、バッグ、ドレスガード等の付属品、ブレーキワイヤー、ギヤチェンジ用ワイヤー、取付け金具類、コード類、ダイナモゴムローラー、乾電池、電装品、電球、レンズ、チェーン、その他「コ・サ」の項の摩耗品及び疲労品、使用者がご自分で取付けた部品。

●この保証書は、本書に明示した期間、条件に基づき保証修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

●保証期間経過後の修理などについてご不明な点はお買い上げ店または、相談窓口（品質保証書記載の住所）にご相談ください。

●部品の保管期間

保証期間経過後でも性能を維持するための補修部品の情報は、お買い上げの店、または製造業者にお問い合せください。尚、新型が売り出された場合は、代替え品にて対応させていただいておりますので予めご了承ください。

●「一般社団法人自転車協会から利用者の皆様へのお知らせ」

BAAマークが貼付された自転車は、安全で長持ちする自転車を目標に、一般社団法人自転車協会が定めた自転車安全基準に基づく型式検査に合格した適合車です。万が一製造上の欠陥で事故が発生した場合は、製造・輸入事業者の責任で補償致します。当会は直接利用者の皆様への補償を致すものではありません。

<販売店様へお願い>

●品質保証書を発行する際は、保証書の各項目をご記入お願いします。

●（控）は貴社の控えとして、必ず大切に保管してください。（保存期間は10年です）

●（保証書）の販売店名欄に貴社名を記入捺印してお客様に必ずお渡しください。

memo

memo